

今年のワカサギについで

七月九日にワカサギのトロールによる試験操業を行いました。結果は次の通りです。(トロール20分間)

表1

場所	漁獲量 (kg)	平均体重 (g)
高津	0.8	2.9
三ツ	0.05	3.2
土浦	1.2	2.7
水原	0.1	2.5
白浜	34.2	2.2
江川	16.3	2.5
	7.1	2.5
	4.2	2.8
	9.4	2.6

この結果から見ると今年の霞ヶ浦は100と200トンの北浦は200トンの獲れそうです。表をみて気付く様に、霞ヶ浦も北浦も魚体の大きさに差がみられます。霞ヶ浦の魚体はほぼ例年通りですが北浦の魚体は過去の年間の同時期のワカサギと比べると全長が1cm以上、体重が2倍ぐらゐり大きくなっています。なぜこうなのかは、まだはっきりしません。

昨年度のワカサギには最近の

ワカサギ資源の減少に因り、ワカサギの動入による獲り過ぎがその原因の一つと見なされ、水質とワカサギの関係、特にプランクトン発生とワカサギとの関係について詳しく述べられてきます。その他にも、ワカサギを取り巻く環境の変化がワカサギに影響を与えていると見られます。

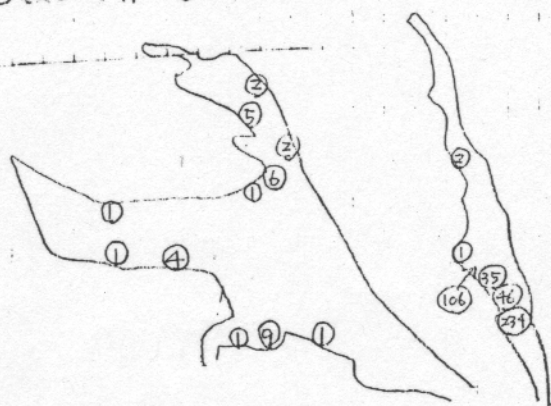
これはワカサギの産卵場が従前のワカサギを取り出し数える調査を行って成長したワカサギの稚魚の分布

表2

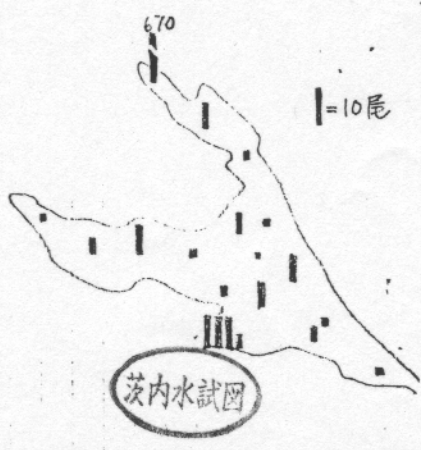
場所	張網一日当り漁獲量
玉里	0.4 (kg)
有河	0.1
土浦	0.02
舟子	0.002
大塚	0.07
小野川	0.3
三ツ	0.8
天五崎	0.1
大生原	2.8
三和	1.0
高田	0.8

別の調査を裏付けるためにも湖底から採取しその中に含まれるワカサギの稚魚を取り出し数える調査を行いました。結果は次の通りです。

※○数字は、9Pの数。



霞ヶ浦における古瀬入、浮島地、北浦における水原、大生原地域は張網、採砂調査ともワカサギの産卵場であることと示してあります。この様な地域の何がワカサギの産卵にとって好条件であるのかを次の仕事とつてつとめなくてはなりません。図です。

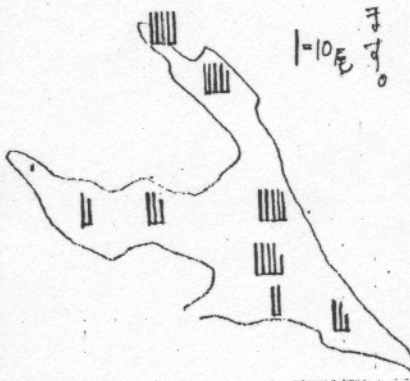


高瀬入の奥部が70尾と多ですが他地域は殆んど均一に分布しているといつてよいと思えます。古瀬入は、産卵場があるためか稚魚も多くなつ

てります。表に示された様に古澤入に注ぐ小野川でも比較的多くワカサギは獲られており、この地域はワカサギの産卵 稚魚の成育にひとつ霞ヶ浦では、重要な場所の一つとみてよりと思えます。

昨年は、ワカサギの分布が土浦入高海入とった地域に偏り、ワカサギ版でもニヒヒクロステリウム(緑藻)との関係が指摘されていきました。今年6月11日全長約4.5cmのワカサギの分布をみますと、昨年のような大きな偏りはなく、本年クロステリウムが殆んど消えつつあったことに対応し、昨年の見解を裏付けています。

全長約4.5cmのワカサギの分布



魚病メモ

昭和48年鹿児島県下の養殖コイに新しい魚病が発生し、54年には長野・山形県でもこの病は全滅といふ大被害が出ると言われています。この病は「腸管巨大腫瘍病」と呼ばれ、粘液胞子虫、テロネスという微小虫が腸管内壁に無数に増殖し、大きなたまりになって腸管をふさいでしまうものです。(腸閉そく)とくん夏の成長期、ニニオ魚の大魚、魚の被害が多量といわれています。昨年9月、12月、霞ヶ浦北浦の養殖コイ(ニニオ)を12漁場、20件、148尾について調べました。(この間サンプルとして魚を頂いた各漁業者の方々にこの病をわかりおれ申しあげます。)その結果、霞ヶ浦における認められなかったが、北浦の一部で、テロネルス病原虫が認められました。これによる被害は出るには至っていないのが現状のようです。しかし一評に病原虫が認められ

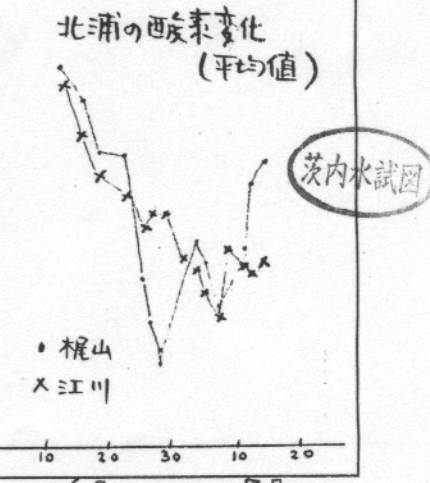
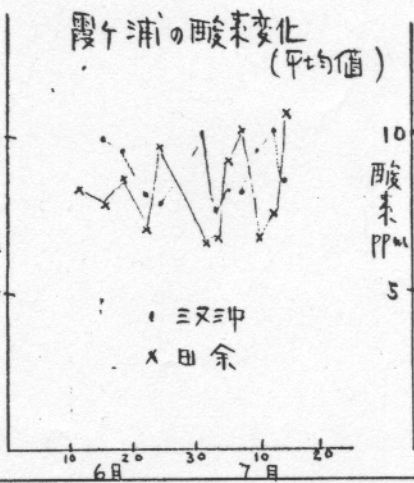
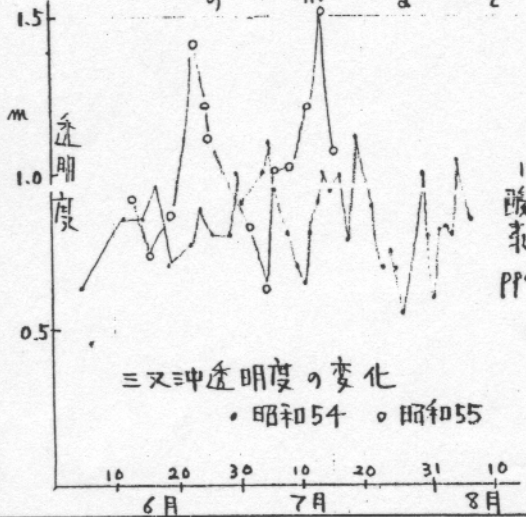
ことから、今後注意する必要があると思えます。この病気の外的特徴は、産卵ルヤせて一見セコケ病のように見え、腹部に手がさわるとシコリのようなものを感じられ、体色は黒っぽくなります。こゝもこのように魚が見つかれば、場合によっては、内水試に連絡して下さい。なお治療法については、いくつか試みられております。まだはっきりわかりません。

現在の水質(7月16日)

カラ梅雨かと心配していましたが、10日ほど梅雨らしくなり、霞ヶ浦の水位も一時Y.P.に近くまでになりました。昭和48年の今日は、玉里でコイの産卵が起った日です。

幸いにも今年、北浦を除き、大きな酸欠もなく比較的安定した状態が続いていますが、アオコは霞ヶ浦北浦とも肉眼でも認められます。

梅雨明けとともに「アオコ」の増殖も活発となり、水質が急からりて、水色・水色の魚の動きなどの変化に注意下さい。



茨内水試図